

宮城県
取組成果発表資料

みやぎDUAL-COREハイスクール・ネットワーク

目的

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を融合させ、経済的な活性化と社会的な課題解決を目指す新たな社会Society5.0の実現とその社会を支える人材育成のために、公的サービスの提供のための手段として**ICTのもつ機能を最大限活用**し、都市部への人的資源の一極集中の是正と地方創生という大きな課題に対して教育分野のアプローチ・研究と位置づけ、本県では仙台圏と郡部の教育機会の格差の解消を目指し、**遠隔授業の在り方についての調査研究**と郡部の高等学校における**地域探究を柱とするカリキュラムについて調査研究**し、地域に貢献する人材を育成する。

現状

●社会的背景

- ・郡部から仙台圏への人口流出
⇒仙台圏の一極集中
- ・15歳人口の減少
⇒郡部の高等学校の定員割れ

●小規模校の課題

- ・生徒のニーズに応える多様な授業の設置が難しい。
- ・地理歴史や理科ではすべての科目の専門性の高い教員が配置できない。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

- 配信側と受信側の教員の連携により、生徒の学習理解度に応じた習熟度別授業
- 理科や地理歴史のような専門性の高い科目の授業
- 配信側の高校の教育課程において特長のある教科・科目の授業（芸術や専門科目）
- 生徒の多様な進路希望に対応する教科・科目の授業
- 地域探究の方法を学ぶ基盤科目として位置づけ、教育課程を共通化する地理総合

2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- 受信校の各高等学校がこれまで地域と連携して実施してきた取組を進化させ、地域をフィールドにした探究活動と地域の課題解決策を提案する総合的な探究の時間のプログラムを構築するために、自治体、地元商工会、大学とコンソーシアムを設置する。
- 地域をフィールドにした探究活動を推進するために、東北学院大学及び宮城学院女子大学と連携する。

3. ネットワークを構成する学校

- 配信校 宮城県宮城野高等学校
(コア校) 宮城県田尻さくら高等学校
宮城県貞山高等学校

県内公立高校で唯一の美術科を有する全日制高校
商業や福祉等、多様な科目の授業を展開する定時制高校
多様な学校設定教科・科目の授業を展開する定時制高校

- 受信校 宮城県岩ヶ崎高等学校
宮城県中新田高等学校
宮城県柴田農林高等学校川崎校

栗駒山麓の栗原市にある全日制高校
音楽の町、加美町にある全日制高校
農業科目も学べる川崎町にある全日制高校(分校)

遠隔事業に関する取組

令和5年度の調査研究テーマ

「遠隔授業における『協働的な学び』の実践の在り方」

- 遠隔教育において「主体的、対話的で深い学び」を実現し、生徒の資質・能力の育成を図るため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に資する実践の在り方を検討
- 特に今年度、1人1台環境における「協働的な学び」の実践の在り方を模索

具体の
取組・成果

遠隔授業における授業設計

受信校の立ち合い者の役割

遠隔事業に関する取組

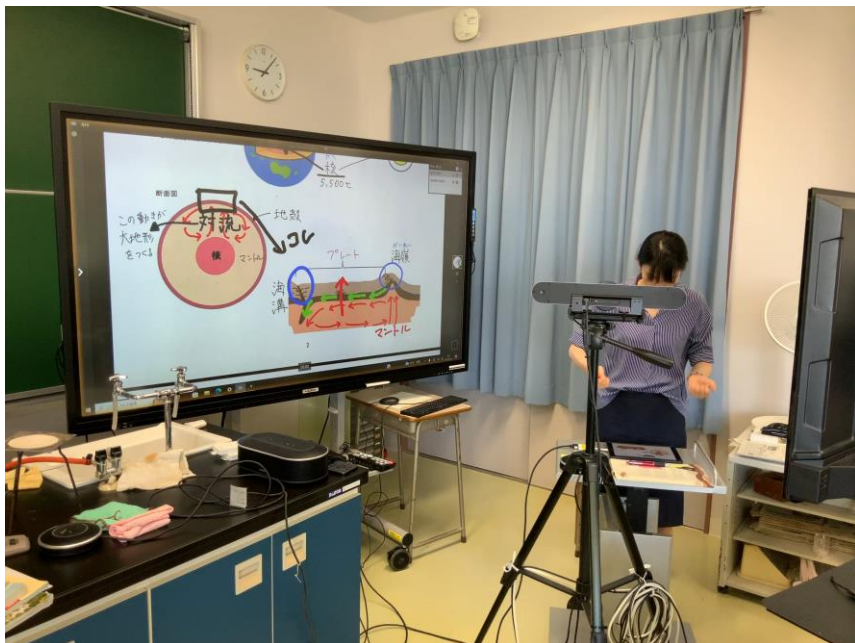
遠隔授業における授業設計

教員のICT指導力の向上

「1人1台端末」

+「遠隔授業」環境への対応

- ・クラウド環境を”適時”活用
- ・“遠隔”だからこそその発問・設計



生徒の情報活用能力育成

「1人1台端末」

+「クラウド」を活用した学び

- ・ベースのスキルの獲得と活用
- ・学習方略の自己選択



地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組

令和5年度の調査研究テーマ

「コンソーシアムと協働した地域探究活動」

- コンソーシアムと協働した地域探究活動を実践し、地域を深く理解し、地域を支える人材の育成の在り方
- 高等学校が地域創生の核となるための、コンソーシアムと学校の協働を支援する管理機関の関わり方

具体の
取組・成果

教育課程内外でのコンソーシアムとの協働

コンソーシアム構築までのプロセス

地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組

教育課程内外でのコンソーシアムとの協働

探究的な学びの深化

地域人材等の活用、地域をフィールドとした活動の充実

- ・実社会でも通用するオーセンティックな学び⇒生徒が社会を変革・創造していく実感

地域コーディネーターの活用

地元自治体による支援や
県事業による配置

- ・教職員の発想にはない教育活動の実践や人とのつながり
- ⇒計画的な活用・ビジョン共有

コーディネーター間のつながり
+
コーディネーターへの支援



<https://kawasaki-quest.net/>



<https://nakaniida-job-traveler.studio.site/>



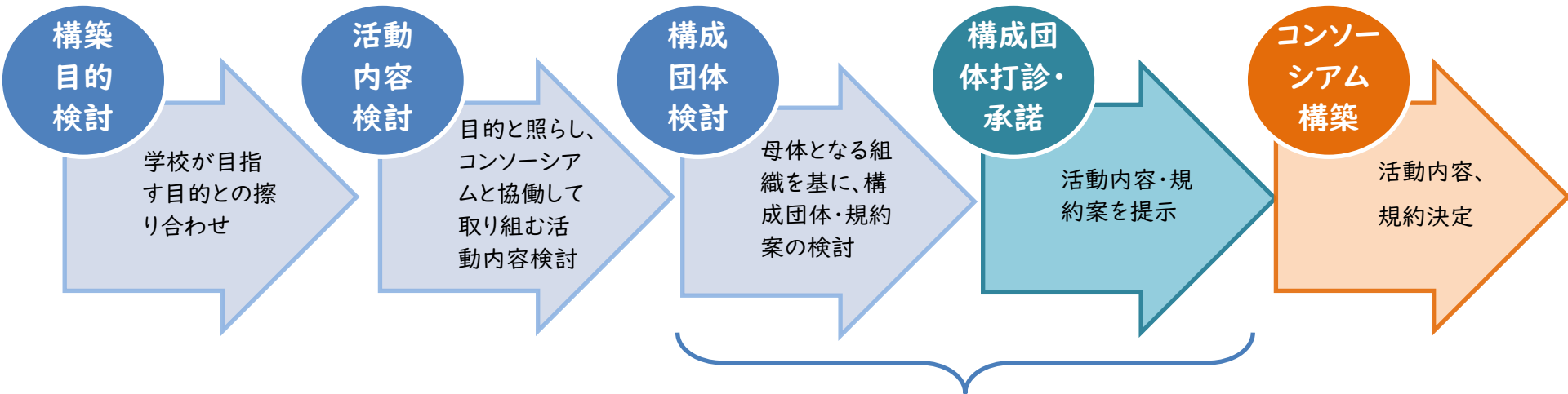
地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組

コンソーシアム構築までのプロセス

コンソーシアム構築モデル

母体となる組織を基にしたコンソーシアムの構築例

- ・既に設置している組織（学校運営協議会など）を母体に構築
- ・目的を明確に持ち、その目的に即した構成団体・活動内容を検討



管理機関は、本事業の知見を基に、規約・構成団体案などを支援

事業3年間の総括と今後の展望

事業3年間の総括

本事業の成果と課題 (成果○ 課題:■)

遠隔授業

- ICTを活用し、対面の授業以上にグループワーク等を実施
- クラウドサービスを活用することで、生徒の活動の把握や成果物等を評価
- 受信校での立ち合い者の役割の明確化

- 遠隔授業の円滑な実施に資する体制整備(時程の共通化)
- 生徒の適切な見取り方

地域協働

- 地域コーディネーター活用による教育課程内外の学校コンソーシアムと協働した取組充実
- 学校コンソーシアム構築から協働までに至る一連のプロセスの見通し
- 管理機関による支援の方向性

- 総探以外の教科での活用
- 地域コーディネーターの持続的な確保(予算、人材)

事業3年間の総括と今後の展望

事業3年間の総括

本事業の成果と課題 (成果○ 課題:■)

遠隔授業

【方向性】

地域協働

学びの本質を捉えた授業改善

「立ち合い者と連携」+「クラウド活用」

成功事例の創出

「役割・業務の明確化」+「モデル化」

【課題の背景・要因】

・対面と同様の環境を再現しようとし、評価方法や授業構想の改善に見通しが持てていない。

・学校教育において地域コーディネーターが果たす役割が、広く共有されていない。

■ 遠隔授業の円滑な実施に資する体制整備 (時程の共通化)

■ 生徒の適切な見取り方

■ 総探以外の教科での活用

■ 地域コーディネーターの持続的な確保 (予算、人材)

事業3年間の総括と今後の展望

今後の展望

本事業の成果を生かし、県単独の事業を推進

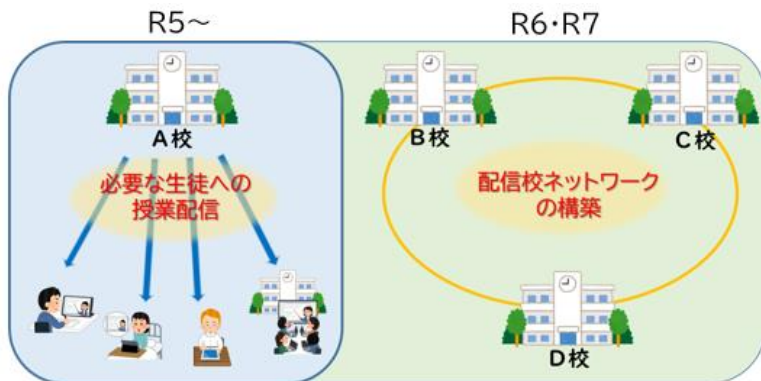
遠隔授業

- ・遠隔授業に必要なICT環境
- ・遠隔授業実施に求められる授業デザイン、ICT活用指導力
- ・受信校側の立ち合い者の役割

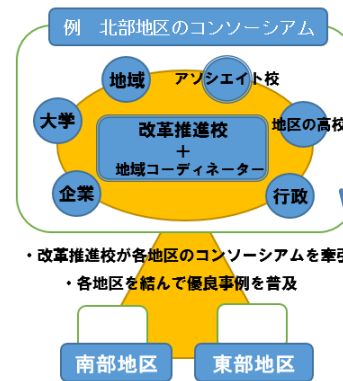
地域協働

- ・学校コンソーシアム構築及びその活用に関する知見
- ・管理機関による支援の方向性
- ・地域コーディネーターの活用

教育DX推進プロジェクト事業



地域進学重点校改革推進事業



- ・地域の拠点校10校の内、3校を改革推進校に指定
- ・改革推進校を中心に、学校コンソーシアムを構築
- ・改革推進校に地域コーディネーターを配置